

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年9月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2022年9月7日～9月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 127社
- 回収率 63.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の9月の状況を見ると業況DIは、前月より5.4ポイント改善の▲21.5となった。

2017年9月以来61ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲21.5、当月と比べ横ばいが見込まれる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2022年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 2022年10月～ 2022年12月
業況	▲24.4	▲24.8	▲24.0	▲22.8	▲26.9	▲21.5	▲21.5
売上	▲17.4	▲6.2	0.9	▲0.8	▲2.4	10.3	▲2.4
採算	▲29.1	▲24.8	▲21.5	▲22.8	▲30.1	▲24.6	▲24.6
仕入単価	▲78.7	▲76.7	▲79.3	▲74.8	▲72.4	▲75.4	▲71.4
販売単価	22.0	26.3	30.6	35.7	34.2	36.5	34.1
従業員	25.2	34.1	30.6	28.4	34.9	37.3	35.7
資金繰り	▲15.7	▲11.6	▲15.7	▲15.5	▲14.7	▲12.7	▲11.9

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 2022年10月～ 2022年12月
建設	▲27.6	▲46.7	▲38.0	▲48.1	▲46.7	▲43.3	▲36.6
製造	▲22.6	▲20.0	▲25.0	▲13.3	▲30.8	▲16.7	▲26.6
卸売	▲28.5	▲22.2	▲7.4	▲21.5	▲17.8	▲17.3	▲17.3
小売	▲22.2	▲20.0	▲36.9	▲31.6	▲21.0	▲21.0	▲15.8
サービス	▲19.1	▲9.1	▲11.1	5.3	▲10.0	0.0	0.0

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間投資意欲の回復により民間建設工事受注が上向き傾向。併せて一般個人住宅新築需要も回復傾向がみられる。一方、資材の高騰及び設備機器の納品遅れから収益性は低下し工期内完了（発注者要求）に向けた時間外労働の増加がみられる。（総合工事）</li> <li>・住宅価格は 20%も上昇したが、顧客所得はほとんど増えていないためローンが組めない状況が多くなってきている。（建築業）</li> <li>・住宅一次取得層の収入減少と建築単価の上昇による予算面から、住宅購入意識が新築にこだわらず中古住宅へシフトする傾向が強くなってきており、新築が主体となる当社にとって業況は厳しい。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工業務が進み、取引先からの発注が少しずつ増えている。来月以降の発注で売上の増加を期待したい。（食料品）</li> <li>・親会社原材料（原木）在庫減少によるチップ加工増産が見込めない。（家具・木材）</li> <li>・仕入単価の上昇が止まらず商品価格の値上げをしても追いついていない状況。売上はそれなりに上がっているが、採算は悪化傾向。（家具・木材）</li> <li>・仕入原材料の上昇が高止まり状態ではあるが安定してきており、ようやく販売単価に転嫁出来るまでになった。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防寒商品の季節投入があったため値上げによる客単価増があり売上は昨年よりも増えたが、今後昨対比以上の実売になるかは不透明。これ以上の値上がりは厳しいと思う。また、パキスタンの洪水の影響による綿製品の今後の高騰も心配される。（繊維）</li> <li>・本年度予算として計上されていた、本社を含むグループ各社の PC 入替といった各種 OA 機器の刷新を予定通り行っており、現在も継続中である。（飲食料品）</li> <li>・仕入単価の上昇に伴い、今のところは価格転嫁できているがさらなる仕入単価の上昇があった場合にどう対処していくか未定である。（機械鋼材）</li> <li>・灯油の仕入値について、産出国による減産・円安さらにこれから需要期に突入するため上昇傾向がしばらく続くと思われる。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9 月に入り秋物商品が店頭に揃ったが、気温も高く日中は夏の暑さがつづく為なかなか秋物を求める来店客が増えない。また秋の季節感がない。日々のコロナ感染者数も減少する兆しも見えない。売上が非常に厳しい。（衣服身回品）</li> <li>・引続き対前年比売上増加が継続。外出制限ない中で観光地での売上も好調。原材料の高騰が価格引き上げのスピードを上回っており注意が必要。売上増加により当面は資金繰りが回っているが、今後厳しくなることも予想される。燃料価格・給水光熱費上昇も不安材料。コロナ下で売上大幅減少した一昨年・昨年と人員削減（自然減含）したが今期は逆に人員採用に舵きり。しかし採用に苦戦しており人員不足が続いている。10 月より最低賃金 31 円アップ。人件費増加が更に利益を下げる要因となる。（食料品）</li> <li>・仕入単価については原油動向による補助金がある年内については大きく変動はないと予想。来年の補助金が無くなるまで、採算価格設定が維持できるかが業況の分かれ道。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響により観光客が減少し、昨年より 2 割程リネンサプライが減少。（理美容・クリーニング）</li> <li>・民間工事を中心に価格競争が激しくなっており、生産性を向上させる為の設備の導入を検討中である。（その他）</li> <li>・売上は上昇傾向にあるが、仕入価格が上がっているためあまり喜べない。（飲食）</li> <li>・旭川市内の感染者数がピークを過ぎたとはいえ、依然高止まりしており利用者の回復傾向に陰りがある中、燃料価格の高騰が終息する気配は未だないことから引き続き厳しい状況となっている。乗務員不足から利用の少ない土日祝について減便等を行ったが抜本的な解決には至っていない。今後路線再編等による運行の効率化等の対策を講じていかなければならない状況となっている。（運送）</li> <li>・人員不足のなか、コロナ前同時期の 8 割近くまでは収入の回復はあるとはいえ、燃料価格の高止まりで収支面での回復には至っていない。運賃改定が認可されたことで 10 月以降の収入増には期待するものの、人員不足の状況下で労働事情を改善する原資にどのくらい回せるものか苦慮中。一昨年の借入れ増分の返済が始まってくることで資金繰りはより厳しくなる見込み。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI0.1 ポイント悪化、採算 DI6.6 ポイント改善、仕入単価 DI3.3 ポイント改善、販売単価 DI3.3 ポイント改善、資金 DI6.7 ポイント悪化、従業員 DI10.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 3.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事 11 ポイント悪化、建築業横ばい、設備その他 29 ポイント改善となった。資材の値上げが続き 10 月には住設・クロス・カーテン等大幅値上げの予定。受注はまずまずで、来年度物件確保に向けての営業継続中との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI2.3 ポイント改善、採算 DI8.0 ポイント改善、仕入単価 DI1.3 ポイント改善、販売単価 DI6.6 ポイント改善、資金 DI19.8 ポイント改善、従業員 DI15.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 14.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 20 ポイント悪化、印刷出版 10 ポイント、家具木材 43 ポイント、金属窯業他 11 ポイント改善となった。売上・販売単価は上がったが資材の値上がり異常との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI13.5 ポイント改善、採算 DI2.9 ポイント悪化、仕入単価 DI4.3 ポイント悪化、販売単価 DI9.0 ポイント悪化、資金 DI3.1 ポイント悪化、従業員 DI6.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、機械鋼材 12 ポイント悪化、繊維・衣服等横ばい、食料品 4 ポイント、その他 10 ポイント改善となった。仕入価格の高止まりと商品納期未定・遅延があるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI31.6 ポイント改善、採算 DI5.3 ポイント改善、仕入単価 DI10.6 ポイント悪化、販売単価 DI5.2 ポイント改善、資金 DI5.2 ポイント悪化、従業員 DI5.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、衣料品、食料品、その他、自動車横ばいとなった。過去 2 年と売上を比べると若干上がってきているが、コロナ禍以前と比べるとまだまだ回復していない。政府の旅行補助で観光客が来店してくれることを期待しているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI28.9 ポイント改善、採算 DI16.1 ポイント改善、仕入単価 DI8.3 ポイント悪化、販売単価 DI1.6 ポイント改善、資金 DI3.4 ポイント改善、従業員 DI 横ばいとなった。総じて業況 DI は 10.0 ポイント改善となった。業種別では、理美容・クリーニング、ホテル・旅館、その他、飲食、整備業横ばい、運送 33 ポイント改善となった。仕入原材料が 2 か月～3 ヶ月単位の速さで上昇しているため、販売価格に転嫁できず資金繰りに苦慮しているとの声も寄せられている。</p>